

2022年11月13日開催  
DREAM AS ONE. × 父子チャレンジアカデミー-SPECIAL FES.

代々木公園陸上競技場 親子580名



開催会場は、代々木公園陸上競技場。午後から雨が心配される天候の中、9時30分に受付が始まると参加案内状を手に親子が続々と来場。保善高等学校、渋谷学園渋谷高等学校の生徒さんにお手伝いいただき、参加者には参加パスポートと感染予防のためのオリジナル記念手袋そして、赤、青、黄、緑、オレンジ、ピンクの6色のチームカラーに色分けされた名札をお渡しします。



10時いよいよスタートです。司会進行は、元フジテレビアナウンサーの田中大貴さんとアシスタントには大学時代陸上6種競技の選手だった宇佐美菜穂さん。田中さんの軽妙な司会で出演アスリートをご紹介。そして、為末大さんの号令で参加者、アスリート全員で準備運動開始です。為末さんオリジナル交流体操プログラムは、いつも親子の笑顔であふれます。



程よく体も温まった後、いよいよ、各種体験指導開始です。5種類の競技を各自思い思いに体験します。かけっこ指導は、女子100m, 200m走日本記録保持者の福島千里さん。穏やかなお話しぶりで優しいお姉さん風ですが、本気で走った時とのギャップがなんとも魅力的です。体験後、子ども達は参加パスポートにスタンプを押して感想を記入します。



走り幅跳び指導は、キングオブ陸上と称される陸上十種競技でアジア大会2大会連続金メダリストの右代啓祐選手。実技披露で身長196cmの大きな体が宙に舞うとワー歓声が沸き、保護者の皆さんは、すかさずスマホ撮影。体が大きくて優しい右代選手は、子ども達に大人気です。



走り高跳び指導は、パラリンピック連続6回出場の鈴木徹選手。右足ひざ下義足のジャンパーの鈴木選手ですが、障害をものともせず華麗に舞うように高いバーを跳ぶ姿はさすが2mジャンパーです。子ども達から喝采を浴びていました。そして、子どもも大人も本格的な高跳びのバーを跳ぶ体験に大興奮でした。



車いすラグビー指導は、2020東京パラリンピック銅メダリストの今井友明選手と羽賀理之選手です。ルールを学び、体験後は5対5のチームに分け実践。ゲーム対戦はひとときわ盛り上がります。また、車いすラグビーの醍醐味であるラグ車タックルは迫力満点。歓声が沸き起こっていました。



義足体験指導は、日本の義足短距離選手第一人者に成長された佐藤圭太選手。中学3年生の時に骨肉腫で足を切断したお話に皆さん真剣なまなざしで耳を傾けていました。初めて義足を試みる参加者は、装着後、恐々とその感触を体験していました。



交流ミニゲームでは、やり投げ女子選手として初めてのメダル獲得を果たした北口榛花選手も赤組のチームリーダーとして参戦。混戦の結果、右代選手をリーダーに率いるオレンジチームの勝利となりました。



ミックスリレーは2回戦勝負。トラック1周50m×8区分を車いす、二人三脚、三人四脚、かけっこの順にバトンを繋ぎます。三人四脚ではろう児童と健常児童のチームが身振り手振りでチームワーク良く走る姿が印象的でした。池崎選手の車いすの猛追を制してのリレー優勝はピンク組鈴木徹チームでした。



為末さんのお話のコーナーでは北口選手と池崎選手も登壇し、子どもの頃の体験談等お話ししてくれました。そして今年も、子ども達から記者さん顔負けの鋭い質問があり、会場は笑いで包まれました。



午後からの雨とコロナ感染が再び増加等、心配された今年の開催でしたが、何とか無事、代々木公園陸上競技場での開催を終え、たくさんの親子の笑顔であふれた1日となりました。指導してくれた右代啓祐選手、福島千里選手、北口榛花選手、鈴木徹選手、佐藤圭太選手、今井友明選、池崎大輔選手、ありがとうございました。参加してくれた皆さんにとって楽しい思い出の1ページになりましたね。